会報神奈川

令和8年10月20日発行
発行責任者　神奈川県神道青年会会長　小泉匡史
〒236-0051 横浜市金沢区富岡東4-5-41　電話（045)776-3838

会長挨拶



神奈川県神道青年会
第三十代会長
小泉　匡史

謹んで聖寿の萬歳と皇室の弥栄をお祈り申し上げます。

また、神宮におかれましても諸祭恙なく斎行されておりますこと、誠に慶賀に存じます。

現在、私は神奈川県神道青年会会長、一都七県神道青年会協議会会長、そして神道青年全国協議会関東地区理事という三つのお役目をお預かりしております。それぞれの立場を務める中で、多くのご縁と、お役目をいただいたからこそ出来る貴重な経験に恵まれております。その全ては決して当たり前のことではなく、支えてくださる皆様への感謝を忘れてはならないと、改めて感じております。

そして、助勤としてご奉仕させていただいたお宮にて、改めて気づかされる事がございました。

神社は、決して神職だけによって守られているものではありません。

朝早く家を出る神職を送り出し、祭典や行事で家を空ける日が続いても、日々の暮らしを支えてくださるご家族がいます。境内を整え、祭典の準備に力を貸してくださる総代や地域の皆様、そして神社に心を寄せてくださる多くの方々がいます。

そのお一人おひとりの支えがあってこそ、私達は御神前に立つことが出来ています。

この会報についても、神職のご家族や神社に関わる方から「読んでいるよ」とお声掛けいただくことがありました。その言葉をいただいた時、同時に一つの思いが胸に浮かびました。

「私達は、支えてくださる方々に、きちんと『ありがとう』を伝えることが出来ているだろうか。」

休日や正月であっても家族が揃わないこと。急なご奉仕によって予定が変わること。それらを受け入れ、送り出してくださること。神社に生きる私達にとって、いつしか当たり前になってしまっていることも、決して当たり前ではありません。

送り出してくれる人がいること。

待っていてくれる人がいること。

何も言わず支えてくれる人がいること。

その一つひとつがあってこそ、私達は御神前に立つことが出来ています。

私達神職は、神様への感謝を申し上げることには慣れていても、一番身近で自分を支えてくれている人への感謝を、言葉にすることを忘れてしまう時があるのかもしれません。

だからこそ、この場をお借りして申し上げます。

神職のご家族の皆様、総代、地域の皆様、そして神社に心を寄せてくださる全ての皆様、いつも本当にありがとうございます。

皆様が守ってくださっているものは、一人の神職、一つの神社だけではありません。先人から受け継がれてきた祭りであり、祈りであり、地域の記憶であり、次の世代へ手渡していく日本の大切な文化そのものだと思います。

いただいたご恩を忘れず、ご縁を大切にし、そしてこの感謝の心も次の世代へ繋いでいく。そのことも私達若い神職の大切な務めであると考えております。

結びに、平素より当会の活動を支えてくださる全ての皆様に、改めて心より感謝申し上げます。少しでも斯界の発展に寄与出来るよう、これからも行動をもって恩をお返ししていくことをお誓い申し上げ、ご挨拶と致します。

活動報告

四月

神道政治連盟 東京都・神奈川県本部合同 靖國神社参拝研修会

教養部　部長　湯田　敬介

令和八年四月二十八日、神道政治連盟東京都・神奈川県本部合同主催となる「靖國神社参拝研修会」へ、青年隊員として当会より四名が参加致しました。

この研修会は、国家の安寧を願い尊い命を捧げられた英霊に対し深甚なる感謝と真心を捧げ、わが国の主権を回復した日にあたる四月二十八日に合わせ、靖國神社春季例大祭直後の清々しい空気の中実施されました。



午後一時より靖國神社へ正式参拝を行った後、参議院議員会館にて研修会が開催されました。研修会には神職並びに議員の方々総勢五十名程が参加し、基調講演では衆議院議員・自民党憲法改正実現本部事務局長の山下貴司先生を講師にお迎えし「憲法改正への取り組みについて」という演題でご講演いただきました。

現在、わが国を取り巻く安全保障環境が緊迫の度を増し、憲法改正議論が国民的喫緊の課題として具体的な局面を迎える中で、時局に添った非常に有意義な時間となりました。

五月

神奈川県慰霊堂大祭

会長　小泉　匡史

令和八年五月十日、神奈川県戦没者慰霊堂に於いて、神道、仏教、キリスト教、天理教の各宗教関係者参列のもと、慰霊堂大祭が厳粛に執り行われました。

それぞれに信仰や祈りの形は異なりますが、戦没者の御霊を慰め、平和を願う想いに違いはありません。各宗教がそれぞれの作法をもって祈りを捧げる姿を目の当たりにし、立場や宗教を越えて同じ想いを共有することの尊さを改めて感じました。

私達が今日、平和な日常を当たり前のように過ごすことが出来る背景には、祖国を想い、尊い命を捧げられた多くの方々の存在があります。時代の移り変わりとともに戦争を直接知る世代が少なくなる中、その歴史と先人の想いに心を寄せ、決して忘れることなく次代へ受け継いでいかなければならないと強く感じます。

この度のご奉仕では、戦没者並びに戦災によって亡くなられた全ての方々の御霊の安寧を願い、深い敬意と感謝をもって祈りを捧げるとともに、我が国と世界の恒久平和を祈念致しました。

慰霊堂大祭へのご奉仕を通じ、今ある平和の有り難さを改めて胸に刻むとともに、先人より受け継いだ想いを未来へ繋いでいくことも、私達青年神職に託された大切な役目の一つであると感じました。

六月

神奈川縣神輿保存會道場祭

渉外部　部長　宮本公太郎

令和八年六月六日、横浜市鶴見区の安善駅近くにて行われた神奈川縣神輿保存會の道場祭に、小泉会長とともに参加し、神奈川縣神輿保存會初代会長の御仏前にもご挨拶申し上げました。

道場祭に続いて、当会ＯＢの萩原伴雄先輩が宮司をお務めの潮田神社の例大祭にもお邪魔させていただきました。町内会連合神輿渡御も見学させていただき、地区を支える力強さを感じました。また祭りを通して地域の活性化や氏子崇敬者との繋がりをさらに深めることができると改めて実感し、青年神職として、これからも変わらずに守り伝えていかなければならないと感じました。

渉外部としても、神奈川縣神輿保存會や当会ＯＢの先輩諸賢の奉務神社など、様々な方々と広く深い関係を築き、当会会員の成長に寄与するよう努めて参ります。



神青協一都七県協議会
第三十二回定例総会

企画部　副部長　茶志川瑞稀

令和八年六月十日、浅草ビューホテルにおいて神青協一都七県協議会第三十二回定例総会が開催され、当会から十五名の会員が参加しました。

本総会では厳正な審議の下、各種議題や会計報告が無事に承認され、続いて役職員交代の件が慎重に審議され、当会会長小泉匡史の新会長就任が満場一致で承認されました。

新会長就任挨拶では、会を構成する各単位会の強みに触れ、「会員数が減っているからこそ、今までのやり方にこだわるのではなく、各々の良さを活かしながら今後の活動を進めましょう」と呼びかけました。

また、ご退任された顧問の先輩方からも「『やるからには精一杯やらせていただきますので応援されるように頑張ります』という強い気持ちを持って行動するように」と温かい激励の言葉を賜りました。

会員一人一人が自分にできる事を全うしなければいけない、と感じた総会でした。これからは自分もできる事を考え、精一杯頑張って、より良い活動にするべく努めようと思った所存です。





【神青協一都七県協議会　小泉新会長ご挨拶】

謹んで聖寿の萬歳と皇室の弥栄をお祈り申し上げます。

また、神宮におかれましても諸祭恙なく斎行されておりますこと、誠に慶賀に存じます。

去る六月九日、浅草ビューホテルにおいて、東京都主管のもと神青協一都七県協議会総会を開催し、多くのご来賓並びに会員の皆様にご臨席を賜り、約百三十名出席のもと盛大に執り行うことが出来ました。開催にあたりご尽力いただきました東京都神道青年会の皆様をはじめ、関係各位に衷心より厚く御礼申し上げます。



この度、神青協一都七県協議会会長という大役をお預かりし、東京地区・関東地区という二つの地区を越えて、多くの仲間と共に歩む機会をいただいております。この立場でなければ出会うことのなかった方々、このお役目をお預かりしたからこそ見ることの出来た景色、そして得ることの出来た経験があります。その一つひとつが私にとってかけがえのないものであり、このような機会をいただいていることを大変名誉に感じるとともに、支えてくださる全ての皆様に深く感謝しております。

しかし、このお役目をいただいた以上、経験を得て終わるだけでは意味がありません。いただいたご縁、学び、経験を自分自身の中だけに留めることなく、仲間へ、各単位会へ、そして次代へと還元していく。そこまでして初めて、この大役をお預かりした意味があるのだと考えております。

一都七県には、それぞれ異なる歴史や文化、地域性があり、各単位会が長い年月をかけて築き上げてきた独自の活動や考え方があります。それぞれが守り、育て、受け継いできたものには、必ず学ぶべきものがあります。

私自身、関東地区理事として各単位会の定例会議や様々な事業に参加させていただきました。実際にその地へ足を運び、会員の皆様と言葉を交わし、共に時間を過ごす中で、それぞれの単位会が持つ熱意や特色、そして長い年月をかけて受け継がれてきた素晴らしい文化を肌で感じることが出来ました。

そこには、自分達だけでは気付くことの出来なかった発想や取り組みが数多くあります。良いものは互いに学び、



持ち帰り、そして自らの単位会に合った形へと発展させていく。一都七県が互いに刺激を与え合い、昨日までなかったものを生み出していく。その積み重ねによって、それぞれの単位会がさらに強くなり、その力が一都七県全体の力へと繋がっていくのだと信じております。

今、神社界を取り巻く環境は大きく変化しています。そのような時代だからこそ、我々青年神職が果たすべき役割は大きいと考えております。先人から受け継いだ大切なものを守り抜くことは当然です。しかし、守るだけでは未来は創れません。何を守り、何を変え、そして何を新たに創り出していくのか。その答えを考え、失敗を恐れず行動に移すことこそ、今を生きる我々青年神職に求められているのではないでしょうか。

私は、組織を動かすのは肩書でも人数でもなく、そこに集う一人ひとりの「想い」と「行動」であると思っております。一人の行動が一人を動かし、その一人がまた次の誰かを動かす。その連鎖がやがて大きな力となり、組織を、そして斯界を動かしていくものと信じております。

だからこそ、一都七県という繋がりを、単なる交流の場で終わらせたくありません。ここで出会った仲間から刺激を受け、何かを学び、それぞれが自らのお宮や地域、単位会へ持ち帰り、一つでも新たな行動へと繋げていく。「一都七県に関わったからこそ、自分が変わった。単位会が変わった。」そう感じてもらえるような協議会を目指してまいりたいと思っております。

私自身も、会長という肩書に甘んじるつもりはありません。この役目をお預かりした以上、何を考え、何を語ったかではなく、最後に「何を行動に移し、何を残すことが出来たのか」が問われるものだと思っております。

守るべきものは、覚悟をもって守る。変えるべきものには、勇気をもって挑む。そして、我々の次を歩む青年神職たちに、今よりもさらに強い一都七県を繋いでいく。そのために、いただいたご縁と経験への感謝を決して忘れることなく、仲間と共に汗をかき、共に考え、共に挑み続けてまいる所存です。

限られた任期ではございますが、だからこそ一日一日を無駄にすることなく、この一都七県という素晴らしい繋がりをさらに強固なものとし、ここで得た学びと経験をそれぞれの単位会、そして斯界の未来へと必ず還元してまいります。

一都七県の仲間と共に、守るだけではなく創り、継ぐだけではなく挑む。その覚悟をもって全力で職責を全うしてまいりますので、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げ、ご挨拶と致します。



神宮式年遷宮研修会

教養部　副部長　感見　健哉

令和八年六月十日、伊勢山皇大神宮記念館二階「開明の間」にて、教養研修「神宮式年遷宮研修会」を十九名参加のもと開催致しました。

本研修会では、伊勢山皇大神宮宮司阿久津裕司先生をお迎えし、神宮式年遷宮の歴史や意義について半日間丁寧にご講義いただきました。

阿久津先生は遷宮諸祭にご奉仕またご参列されたという大変貴重な経験をお持ちで、その体験談や深い見識を拝聴出来た事は我々若い世代にとって心に強く響くものがあり、多くの学びを





得るまたとない機会となりました。加えて御柚始祭（みそまはじめさい）の様子を記録した貴重な映像もご提供いただき視聴致しました。実際の祭儀が持つ独特の空気感や熱量を感じ取る事ができ、理解を深めるうえで大変有意義な学びとなりました。

研修会終了後には、阿久津先生を交えての懇親会を行いました。講義の場だけでは伺えなかった一歩踏み込んだ話題にも花が咲き、参加者それぞれが親睦を深めつつ、今後の活動への糧となる大変貴重な交流の機会となりました。本研修で得た知見を糧に、より一層神明奉仕に励んで参ります。

お田植え

企画部　副部長　竹内　悠祐

当会では青少年の育成を目的とした稲作体験事業を、伊勢原市の御神田において毎年実施しています。

五月七日、例年ご協力頂いている長嶋様（元耕作者）宅にて「種まき」を実施し、六月二日には田んぼの土手作り作業である「クロツケ」を行い、お田植えに向けて準備を整えました。

来る六月十四日、三ノ宮比々多神社への参拝を行った後、御神田にて御田植祭を執り行いました。当日は時折雨が降るあいにくの天候ではありましたが、会員家族十三名と一般参加者二十四名、さらに國學院大學の学生五名にご参加いただき、総勢四十二名でお田植えに臨みました。











参加者は足元の悪い中で泥にまみれながらも、一株一株心を込めて苗を植える姿が大変印象的でした。本年も自然の恵みや食への感謝の気持ちを深める貴重な機会となり、終始活気あふれる雰囲気の中、皆で協力しながら作業を進め、無事にお田植えを終えることができました。









今後も自然への感謝の心を大切に、収穫の日を迎えるまで稲の成長を見守っていきたいと思います。

八月

神宮御木曳行事（川曳奉仕）

渉外部　部長　宮本公太郎

令和八年八月二日、第六十三回神宮式年遷宮御木曳行事川曳奉仕に参加致しました。

長い歴史の中で受け継がれてきた神宮の御造替に関わる大切な御用材を、地域の奉曳団の皆様と心を一つにしてお運びすることができ、大きな喜びと深い感動を覚えました。

五十鈴川の中で掛け声を合わせながら御用材を曳く中で、先人たちが守り続けてきた伝統の重みと、世代を超えて受け継がれる信仰の力を肌で感じました。また、沿道には多くの方々が集まり、温かい声援を送ってくださっており、式年遷宮が神宮に関わる人々だけでなく、日本全体の大切な文化として支えられていることを実感いたしました。





当日は愛子内親王殿下にも御臨席を賜り、伝統ある御祭事を見守られるお姿に接する中で、式年遷宮が皇室と深い関わりを持ちながら、日本の歴史や精神文化を未来へつなぐ大切な営みであることを改めて感じました。

今回の奉仕を通して得た感動と学びを胸に刻み、神職として日々の奉仕に努めるとともに、受け継がれてきた伝統と祈りの心を次代へ伝えてまいりたいと思います。

神祭具　授与品　記念品　奉製
株式会社 神路社
本　社
〒516-0037 三重県 伊勢市 岩渕2丁目5番29号（松書函第26号）
電話番号 0596-24-5858 ／ FAX 0596-24-5110
E-mail info@kamijisya.co.jp
IP電話 050-3536-5273
神　苑（東日本営業所）
〒150-0022 東京都 渋谷区 恵比寿南2丁目23番7号
エビスパークヒルズ201号室
電話番号 03-3280-6720 ／ FAX 03-3280-6721
E-mail info-tokyo@kamijisya.co.jp
IP電話 050-3539-3432
http://www.kamijisya.co.jp

織細な技術と日本の伝統を今に継ぐ
授與品の奉製
古都 奈良の
株式会社 大和奉神堂
〒630-8434　奈良市山町782番地
TEL 0742—62—3235（代）
FAX 0742—62—3228
E-mail : hoshindo782@yahoo.co.jp
HomePage : http://www.yamato-hoshindo.net/

この国の佳き伝統とともに
株式会社 宮本卯之助商店
創業文久元年　太鼓・神輿・祭礼具　製造販売
〒111-0035 東京都台東区西浅草2-1-1
tel. 03-3844-2141 fax. 03-3842-6730
www.miyamoto-unosuke.co.jp

神奈川県神社庁御用達
株式会社 クレックス
代表取締役　近藤榮人
〒194-0014
東京都町田市高ヶ坂六—十八—一〇番地
電話　〇四二—七二八—八九四一（代）
FAX　〇四二—七二三—三五六三

凧づくり及び凧揚げ体験

親睦部　副部長　伊藤名央貴

令和八年八月十一日、親睦事業として初となる「凧づくり及び凧揚げ体験」を鈴鹿明神社及び相模川河川敷にて開催し、会員・県内神職・県内神社奉務者とそのご家族、計二十名（大人十一名、子ども九名）にご参加いただきました。



当日は、鈴鹿明神社宮司古木普総様とも親交があり、長年に渡り座間の大凧を継承している座間市大凧保存会の皆様にお力添え頂きました。正式参拝の後、参集殿をお借りし開会式、凧づくり体験を行い、昼食を経て午後には相模川河川敷へ移動し、大凧と各々にて製作した小凧を実際に空へ揚げる体験を行いました。





台風接近や熱中症等も心配されましたが、大きな支障なく無事に本事業を終えることができました。



近年では体験する機会が少なくなってしまった凧づくり・凧揚げですが、この体験を通して面白さ・楽しさを改めて体感した一日となり、参加者・家族同士の親交も深める良い体験となりました。







今後も親睦部では子どもたちへ日本の文化・遊びを継承し思い出を彩るような事業を展開し、神社関係者をはじめ人々の交流を促進してまいります。





神社庁書道展授賞式助勢

涉外部　副部長　新倉佳奈恵

神奈川県神社庁主催の「第三十九回青少年書道展並びに第二十四回絵画展」の授賞式が、八月十八日、らびすた新杉田四階の杉田劇場で開催され、当会会員も助勢致しました。

当日、会員は午前九時に集合して会場の設営や受付の準備を行い、授賞式をスムーズに進めるため、リハーサルを行いました。

授賞式の前には、神奈川県神社庁教化委員による神話の公演も行われ、楽しく臨場感のある読み聞かせに、会場の皆さんも興味深そうに耳を傾け、和やかな時間となりました。

午後三時から始まった授賞式では、多くの応募作品の中から選ばれた、神社本庁統理賞をはじめとする各賞が受賞者に贈られました。当会会員も賞状の手渡しなど、式典の進行をお手伝いし、会場からは受賞者に温かな拍手が送られ、子供たちの緊張と嬉しさの混じった表情がたいへん微笑ましく感じられました。子供たちの笑顔からは、作品に込めた努力や喜びが伝わってきて、私たちも大きな元気をもらいました。



今回の書道展・絵画展が、子供たちにとって日本の文化や神社、そして神道に親しむきっかけとなることを祈っております。

令和八年度神道青年全国協議会夏期セミナー

相談役　山本　喜道

令和八年八月二十日～二十一日、東京都渋谷区にある明治神宮参集殿において、「令和八年度 神道青年全国協議会 夏期セミナー」が開催され、全国より約一七〇名の青年神職が集まり、当会からは小泉会長、坂路事務局長、私の三名で参加させていただきました。

開講式の後は明治神宮を正式参拝させていただき、気持ちも新たに今回のテーマである「不易流行の社―伝統の継承と新たな『繋がり』の創造―」について、三名の講師先生にご講演賜りました。

第一講はテレビで拝見することも多い国立大学法人東京海洋大学名誉博士であるさかなクン先生に「おしえて！さかなクン―未来へ繋ぐ海と環境のお話―」の演題で講義をいただき、様々な海洋生物のお話と自然を壊さないように守っていくことが大切であるとお話をいただきました。



第二講は株式会社 小西美術工藝社代表取締役のデービット・アトキンソン先生に「訪日外国人への対応や魅力の伝え方」のテーマで、訪日外国人が日本や神社をどのような見方で捉えているのか、神社の精神性をより深く訪日外国人に伝えるためには神職が自身の奉職神社をどこまで表現できるかが大事である等、解説いただきました。

第三講は株式会社ＴＡＮＧＥ ＦＩＬＭＳ代表取締役社長の森下征治先生に「ＡＩ時代における人間性の回帰と



授与品・記念品御奉製
株式会社 長谷川製作所
代表取締役　長谷川義貴
HASEGAWA
creation with warmth
〒340-0025 埼玉県草加市谷塚仲町466-1
TEL: 048-921-1221 / FAX: 048-921-1515



共同体」という内容で、人とＡＩとの分業、また自身の笠間稲荷神社での活動、新しい時代のコミニィティイと文化のあり方についてお話をいただきました。

研修の標題である不易流行にあるように、変えてはいけないものと時代に合わせて変えていくべきものについて、今後の時代の変化に合わせて神社界に必要な考え方を学ぶことができた二日間でした。

東京都神道青年会開催 夏の野外懇親会

親睦部　副部長　穐山　佳昌

令和八年八月二十七日、屋形船「品川船清」において開催された、東京都神道青年会主催の納涼会に、福島県神道青年会と当会がお招きいただき、当会から五名の会員が参加いたしました。

多くの会員が参加できるよう夕方からの開催となり、総勢四十六名が参加しました。当日は雨予報となっていましたが、乗船する頃には雨が上がり、涼風をより一層心地良く感じられる絶好の納涼会日和となりました。

船上では、単位会の垣根を越えて、参加者同士が様々な意見交換を行っていました。周囲を気にする必要がない解放感のある懇親の場だからこそ、話題が広がり親睦をより深めることが出来ました。また、参加した子どもたちが屋形船からの眺めに喜ぶ姿に、私たちも自然と笑顔が溢れる和やかなひと時でした。







懇親の場を設けてくださった東京都神道青年会会員の皆様のご尽力により、対面での意見交換の大切さ、視野を広げることの重要性を改めて実感することが出来ました。

浦安の舞研修会

広報部　部長　吉本けいと

令和八年八月二十八日、神奈川県神社庁にて当会主催の浦安の舞研修会が開催され、扇舞を中心とした研修が行



われました。

本研修は舞と楽の二つのチームに分かれて行われ、舞のチームでは浦安の舞の基本的な所作や参入出を含む一連の流れについて、村富神社宮司福田満理先生（神奈川県神社庁祭祀舞講師）より丁寧かつ実践的なご指導をいただきました。初心者が多い中、各奉仕神社に戻ってから一人でも動けるようにと、各々の姿が見えないように背中合わせに舞うなどの工夫を交えながら、浦安の舞の所作をひとつずつ確認していきました。個人練習では気づきにくい癖や、自己流になっていた部分についてもご指摘いただき、自分自身の舞を改めて見つめ直す貴重な機会となりました。



研修の中で特に心に残ったのは、先生が仰った「浦安の舞で大切なのは神様への祈りです」というお言葉です。「ひとつひとつの所作を正しく、丁寧に、神様への真心をもって奉仕することができれば、きっと観ている人の心にも響くでしょう」とのお話をいただき、舞の技術だけでなく、その根底にある奉仕の心の重要性について改めて学びました。

今回ご指導いただいたことを今後の稽古に活かし、より良い神明奉仕ができるよう、研鑽を重ねてまいります。



九月

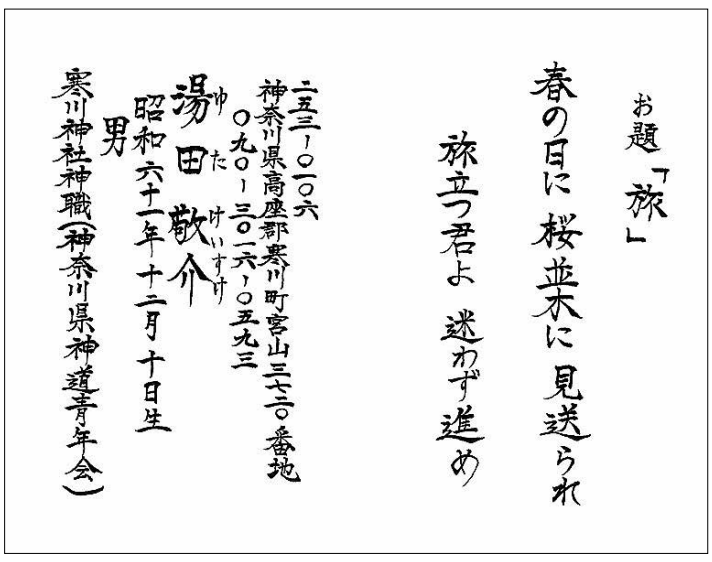
令和九年歌会始詠進

教養部　副部長　伊與田雅也

本年も当会の継続事業として、毎年恒例となっております「歌会始の儀」への和歌の詠進を行いました。

当会における歌会始への詠進は、令和元年の「天皇陛下御即位奉祝・神奈川県神道青年会創立七十周年記念事業」の一環として始まった事に遡りま す。八度目となる本年は、会員から寄せられた三十二首の和歌を詠進する事が出来ました。

「歌会始」とは、毎年皇居において行われる新年の宮中行事で、天皇陛下・皇后陛下をはじめ皇族方や、選ばれた一般の歌人が和歌を披露する行事です。毎年定められたお題に沿って詠進歌が寄せられ、その中から十首が選ばれます。本年のお題は「旅」とされ、会員からもそれぞれの経験や想い、個性が表れた歌が詠進されました。


お題「旅」

春の日に桜並木に見送られ

旅立つ君よ　迷わず進め

二五三-〇〇〇六
神奈川県高座郡寒川町宮山三七三〇番地
〇九〇-三〇一六-〇五九三
湯田（ゆだ）　敬介（けいすけ）
昭和六十一年十二月十日生
男
寒川神社神職（神奈川県神道青年会）

和歌は『古事記』において「八雲立つ出雲八重垣妻籠に八重垣作るその八重垣を」と須佐之男命が詠んだことを起源とするともいわれ、古来、日本人が自然や人との関わり、そして自身の想いを言葉に託してきた日本文化の中核であります。こうした伝統を現代において実践し、次代へと受け継いでいくことは、今を生きる我々の大切な役割であります。

今後も本事業を継続し、多くの会員が和歌に親しむ機会を創出してまいります。

新入会員紹介

このたび、当会は新たに四名の仲間をお迎えしました。ここに新入会員の皆さまをご紹介いたします。神奈川県の青年神職として志を一つにし、共に学び、励まし合いながら、研鑽を重ねてまいりましょう。



植栗（うえくり）　曹之（ともゆき）
生年月日：平成十一年十一月二日　**奉職先**：伊勢山皇大神宮　**出身地**：神奈川県横浜市　**座右の銘**：人事を尽くして天命を待つ　**趣味・特技**：野球、バイク　**これからの抱負**：このたび神道青年会に入会いたしました。植栗曹之と申します。先輩方から多くを学び、このご縁を大切にしながら自己研鑽に努めて参ります。青年会を始め、神社界の発展に少しでも貢献できるように精進して参りますので、よろしくお願い致します。



穐山（あきやま）　佳昌（よしまさ）
生年月日：平成八年六月六日　**奉職先**：大稲荷神社　**出身地**：神奈川県小田原市　**愛称**：あきやま　**座右の銘**：一燈照隅　**趣味・特技**：散歩　**これからの抱負**：この度、神奈川県神道青年会に入会させていただきました。未熟者ではございますが、青年会の活動を通じて、神社界の発展に貢献出来るよう精進して参ります。諸先輩方にはご迷惑をおかけすることが多々あるかと思いますが、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



足立（あだち）　良介（りょうすけ）
生年月日：平成十一年七月十七日　**奉職先**：寒川神社　**出身地**：鹿児島県鹿児島市　**愛称**：だっちん　**座右の銘**：雨垂れ石を穿つ　**趣味・特技**：映画鑑賞　**これからの抱負**：寒川神社に奉職し、日々の奉仕の中で至らぬ点を実感しながら、勉強の毎日を過ごしております。今後は神職として一歩ずつ成長し、その経験を活かして青年会の活動にも深く貢献できるよう、より一層精進して参ります。まだまだ若輩者ゆえ、皆様には多々ご迷惑をお掛けすることもあるかと存じますが、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



伊與田（いよだ）雅也（まさや）
生年月日：平成十四年十一月二十日　**奉職先**：神奈川県神社庁　**出身地**：愛知県　**愛称**：いよちゃん　**座右の銘**：日日是好日　**趣味・特技**：旅行、絵画、読書　**これからの抱負**：この度、神道青年会に入会させていただきました。まだまだ未熟ではございますが、一日も早く神社界の一員としてお役に立てるよう、日々研鑽を重ねてまいります。至らぬ点も多々あるかと存じますが、諸先輩方のご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。







神奈川県神道青年会創立75周年記念事業　歳入歳出決算報告

歳入計	11,669,662
歳出計	11,669,662
収支差異	0

歳入の部

(単位：円)

科目	予算額	決算額	差額	備考
1 会員拠出金	465,000	595,000	130,000	61名(前期会員分含)
2 協賛金	4,020,000	4,715,000	695,000	
別表神社	1,550,000	1,360,000	△ 190,000	9社
県内神社	1,370,000	2,265,000	895,000	県内神社、賛助会員、顧問
神社庁	300,000	300,000	0	神社庁
各支部	500,000	500,000	0	10支部
関係団体	300,000	290,000	△ 10,000	県総連他
3 広告協賛金	400,000	0	△ 400,000	広告協賛依頼なし
4 雑収入	500,000	3,359,662	2,859,662	慰霊祭玉串料、記念大会祝金他
5 繰入金	4,295,000	3,000,000	△ 1,295,000	歳計調整資金より繰入
合計	9,680,000	11,669,662	1,989,662	

歳出の部

(単位：円)

科目	予算額	決算額	差額	備考
1 記念大会費	5,500,000	5,409,030	△ 90,970	式典、祝賀会、記念品他
2 記念事業費	3,360,000	2,579,689	△ 780,311	
県戦没者慰霊祭	300,000	193,510	△ 106,490	令和7年5月29日　斎行
顔写真入り神職手帳	750,000	750,237	237	令和7年8月　発行
HPリニューアル	850,000	852,500	2,500	令和7年6月　執行
周年奉告参拝旅行	210,000	170,752	△ 39,248	令和6年9月25～26日　執行
硫黄島訪島事業	500,000	58,993	△ 441,007	令和6年10月13～14日　執行
会報75周年記念号	750,000	553,697	△ 196,303	令和8年5月20日　発行
3 事務通信費	500,000	409,784	△ 90,216	郵券代、振込手数料、入金手数料他
4 会議費	120,000	89,673	△ 30,327	ZOOM利用料、会議会場費
5 予備費	200,000	0	△ 200,000	
6 繰戻金	0	3,181,486	3,181,486	歳計調整資金へ繰戻
合計	9,680,000	11,669,662	1,989,662	

令和8年7月31日現在

創立75周年記念事業会計監査報告

令和8年8月7日、創立75周年記念事業会計の決算について、帳簿、証憑類、通帳等を
それぞれ厳正なる監査を行ったところ、いずれも適正に処理されていることを確認した。

神奈川県神道青年会　　監事　中村友郎

上記のとおり、創立75周年記念事業を納めることが出来ましたことご報告致します。
ご協賛、ご協力賜りまして誠にありがとうございました。

神奈川県神道青年会　創立75周年記念事業　実行委員長　小峰敏風

創業百有余年
— 伝統の技術を活かした授与品作り—
神奈川県神社庁をはじめ
全国各神社でご利用頂いております。
神符・守札・木札・金襴御守・御朱印帳
交通安全守・彫り木守・守護矢・ステッカー
シール型守・縁起物・切り絵御朱印



株式会社 丸井紙店
TEL 055-272-0136 FAX 055-272-3966
〒409-3601 山梨県西八代郡市川三郷町市川大門763 https://juyohin.co.jp/



授与品全般・神具
秋江
創業安政弐年
株式会社秋江
御守袋・錦守・木札・紙札・絵馬・土鈴
おみくじ・根付・神具・御装束・記念品
〒602-0056
京都市上京区堀川通上立売下ル北舟橋町835
TEL 075(432)2255(代) FAX 075(441)8011
https://www.akie-net.com

御社頭授与品
御参拝記念品
立案調製
〈営業品目〉●交通安全御守護
●開運招福鈴
●文鎮 金盃
●各種記念品類
●胸像・レリーフ・鋳造類
鈴木徽章工芸株式会社
〒113-0032 東京都文京区弥生2-12-1
TEL 03-3814-1811 FAX 03-3818-8332
E-mail : info@suzuki-kisho.co.jp
http://www.suzuki-kisho.co.jp



https://www.jingukaikan.jp

誠実奉仕、信用第一
神社本庁 御用達
國學院大學 推薦店
明治神宮 指定店
瀬戸装束店
〔営業品目〕
●神職御装束●神楽装束●神社調度
●祭器具のすべて●神前結婚式場神殿設備
〒164-0001 東京都中野区中野3丁目10番5号
電話 03-3381-4927 FAX 03-3381-4927

祈る心によりそう御守づくり
京の伝統に真心を込めて



環境にやさしい授与品づくりをめざしています
京都奉製株式会社
0120-164124（イロヨイニシキ）
京都本社／東京営業所／仙台営業所／
福岡営業所／東海営業所／広島営業所
ホームページQRコード

誠実と真心で奉仕する
御守・授与品・参拝記念品奉製
天然石厄除開運腕輪守・天然石みくじ
御一報次第カタログ御送り致します。
グリーン産商株式会社
〒547-0033 大阪市平野区平野西4丁目8番29号
TEL (06) 6702-6009 (代表) FAX 0120-34-2996

令和８年度前期活動報告

4月
- 2　神青協一都七県協議会親睦ゴルフ大会（栃木県・サンヒルズカントリー）
- 7　神道青年全国協議会能登半島地震復興支援活動（能登半島）
- 8　会計監査会（横浜駅周辺）
- 10　神青協一都七県協議会記念誌編集委員会・事務局会（オンライン）
- 14　第1回拡大役員会（稲毛神社）
- 17　神青協一都七県協議会　第1回定例会議（日本文化興隆財団）
- 22　神道青年全国協議会　役員会（神社本庁）
- 23　神道青年全国協議会　第77回定例総会・菊波友垣の会（神社本庁・東郷会館）
- 24　令和８年度定例総会・懇親会（稲毛神社・煌蘭川崎店）
- 27　創立75周年記念事業第17回実行委員会（オンライン）
- 28　神道政治連盟神奈川県本部・東京都本部合同研修会（靖國神社・参議院会館）

5月
- 7　神青協一都七県協議会　事務局会（渋谷氷川神社）
- 7　御神田　種蒔き（伊勢原市　御神田）
- 11　神青協一都七県協議会　監査会（渋谷　氷川神社）
- 20　神青協一都七県協議会　臨時会議（日本文化興隆財団）
- 25　第2回拡大役員会（稲毛神社）
- 26　神道青年全国協議会　役員会（神社本庁）

6月
- 2　稲作体験事業　クロツケ作業（伊勢原市御神田）
- 6　神奈川縣神輿保存會　道場祭（鶴見区　安善）
- 9　神青協一都七県協議会　第32回総会（浅草ビューホテル）
- 10　教養研修会　『神宮式年遷宮研修会』（伊勢山皇大神宮）
- 14　稲作体験事業　御田植え（伊勢原市　御神田）
- 16　神道青年近畿地区協議会（琵琶湖ホテル）
- 18　神道青年全国協議会　北方領土の碑視察並びに清掃奉仕（納沙布岬）
- 23　神道青年全国協議会　第65回平和祈願慰霊大行進・沖縄全戦没者追悼式（沖縄県）
- 26　神道青年全国協議会　第14回役員会（オンライン）
- 29　第3回拡大役員会（森戸大明神）

7月
- 13，14　北陸地区神道青年協議会研修会・復興支援（石川県）
- 14　第4回拡大役員会（オンライン）
- 16，17　東北地区六県神道青年協議会　禊練成会（青森県）
- 18　全国氏子青年協議会第64回定期大会（静岡県）
- 22，23　神奈川県神社庁書道展・絵画展　助勢（新都市プラザ）

8月
- 1，2　神道青年全国協議会　『神宮式年遷宮　お木曳事業』（神宮）
- 7　創立75周年記念事業　監査会（横浜駅周辺）
- 10　群馬県神職青年会　第3回役職員会（群馬県神社庁）
- 11　夏の親睦事業『凧つくり・凧あげ体験』（鈴鹿明神社・座間市）
- 14　神青協一都七県協議会　事務局会（オンライン）
- 18　神奈川県神社庁書道展・絵画展授賞式助勢（杉田劇場）
- 20，21　神道青年全国協議会　夏期セミナー（明治神宮）
- 21　神青協一都七県協議会第2回定例会議（日本文化興隆財団）
- 25　神道青年東海地区協議会総会並びに教化研修会（熱田神宮会館）
- 27　東京都神道青年会　TSS納涼会（東京都品川区）
- 28　浦安の舞講習会（神社庁）

9月
- 3　神道青年全国協議会　竹島の碑視察並びに清掃奉仕（島根県　隠岐の島）
- 11　創立75周年記念事業反省会（伊勢山皇大神宮・桜木町周辺）
- 14　第5回拡大役員会（白旗神社）
- 16　神道青年全国協議会　第17回役員会（神社本庁）
- 17　神道青年全国協議会　乃木神社正式参拝（乃木神社）
- 24　国民運動50年・日本会議30年記念の集い（東京プリンスホテル）

慶弔報告

◇**結婚**

伊勢山皇大神宮　権禰宜
榊原　悠太
令和八年一月二十九日

◇**誕生**

伊勢山皇大神宮　権禰宜
榊原　悠太
第一子　長男　彩都（さいと）
令和八年七月三日生



入会・退会会員

◇**退会**

報徳二宮神社　権禰宜　長坂　倫旦



長坂倫旦親睦部部長の退会（県外転出）に伴い、後任には親睦部副部長の田村拓之君（寒川神社権禰宜）が就任いたしました。宜しくお願い申し上げます。

編集後記

この度は会報八十二号発行に際しまして、社務ご多忙の中お力添え賜りました皆様、またご協賛各社に、心より御礼を申し上げます。

時代の変化とともに、神社を取り巻く環境も少しずつ変わりつつある中、神社が人と人を繋ぐ地域コミュニティーの中心という極めて重要な役割は今も変わりません。

本年の当社例大祭では新たな催事として盆踊りを行いました。準備や運営にも様々な工夫を重ねましたが、当日、多くの方々が想いを一つに楽しむ姿を目にし、神社は世代を超えて人と人とのつながりを育む大切な場であることを改めて実感しました。

受け継いできたものを大切にしながら、新しい時代に合わせて工夫を重ねていく。その両方を大切にしながら、これからの神社の在り方を考えていくことが、我々青年神職に求められることの一つなのかもしれません。

本会報を通じて、会員の皆様それぞれの活動や想いに触れていただき、日々の奉仕を考えるひとときとなれば幸いです。

広報部　副部長　和田　将詞

トライアル受付中
ご祈祷予約システム
Smart かぐら
祈祷予約 ネットにしたら すごい増えた

ミツイワ株式会社
〒150-0002　東京都品川区北品川５丁目１番18号
TEL：03-3407-2260　Mail：sales-info@mitsuiwa.co.jp

御装束・御簾・神輿
神祭具調度
宮内庁御用達・京都百年老舗
有限会社 竹重
〒600-8324
京都市下京区西洞院花屋町上る東側町510
☎075-371-0394　FAX075-341-6966
フリーダイヤル 0120-37-0394

各種御守・授与品全般・デザイン制作承ります。
有限会社 西紀（にしき）
TEL：072-810-8133
FAX：0120-71-8135
FAX 24時間受付
〒576-0034 大阪府交野市天野が原町4-1-7
メール：mytom@chive.ocn.ne.jp


社殿造営・神棚 神具製造
有限会社 俵田屋（ひょうたや）
代表取締役 田中弘紀
〒516-0026
伊勢市宇治浦田二丁目一〇ノ三八
電話 〇五九六 二三 三九〇五
FAX 〇五九六 二三 三九〇八

奉じる心を大切に　全国社寺 授与品 調度品 総合奉産
京都・吉祥院
東和奉産株式会社
代表取締役 松尾正貴
本社・工場 〒601-8348 京都市南区吉祥院観音堂町七
電話代表 (075) 691-3000
FAX (075) 691-3300
E-mail info@towahosan.jp

営業品目
縁起物入みくじ・金属製守・木札守・紙札守
金襴錦守・各種熊手・守護矢・朱印帳
おまもりの奉製
株式会社 阿部
〒323-1104 栃木県栃木市藤岡町藤岡5203-1
TEL (0282) 62-1010 (代表)
FAX (0282) 62-2061

ゴルフ同好会



ゴルフ同好会では不定期ですがゴルフコンペを企画し、開催しております。

今年は五月十二日に静岡県駿東郡にある三甲ゴルフ倶楽部 富士コースにて東京都神道青年会と北多摩神道青年会むらさき会の有志の方をお招きし、十一名の参加者でのゴルフコンペを開催致しました。優勝は当会顧問の二見直樹先輩、団体戦の優勝は東京都神道青年会となり、当会の親睦だけでは無く、他県との交流を深めることの出来たゴルフコンペとなりました。

ゴルフ同好会では、初心者の方にも楽しんでいただけるようゴルフ練習場での練習を企画し、会員同志の親睦を深める一助となれるよう活動して参ります。

【事務局】日枝神社　山本喜道
☎〇四四―四二二―三二七一

フットサル同好会



月に一～二回程度、横浜市近辺の体育館やフットサル場を中心に活動しています。

小泉匡史選手兼監督による本格的な戦術練習をはじめ、未経験者向けの基礎練習、運動不足の方向けのフィットネス感覚のボールを使わないトレーニングなど、多彩なメニューをご用意しております。

お子様も一緒に楽しめるバラエティ豊かなプログラムですので、ご家族でのご参加も大歓迎です。

また、当会は毎年秋に開催される「一都七県親睦フットサル大会」で優勝経験もあり、フットサルを通じて神奈川県内だけでなく他県との交流も行っています。

運動を通じて、多くの仲間との親睦を深められる環境ですので、ぜひお気軽にご参加ください。

【事務局】八幡大神　小泉匡史
☎〇八〇―九五七九―七七四〇

野球同好会



野球同好会は月に二回ほど、横浜及び川崎の球場を借りて練習を行なっています。毎年秋に開催される一都七県神職野球大会に向けての練習ですが、会員の中には野球未経験者も多く、試合に勝つだけでなく親睦を深める事も目標に、明るく楽しく日々練習に励んでいます。同好会は年齢制限を設けておらず、青年会ＯＢが多く、練習では世代を超えて和気藹々と交流を深め、分からないことがあれば親身に教えていただけるので、安心して参加できます。

また、嬉しいことに、神奈川県は昨年も大会に優勝し二連覇を成し遂げました！　練習もそうですが、やはり神奈川県らしい「明るく元気に楽しく」をモットーに、そして世代を超えた絆が深いからこそ連覇を成し遂げられたと思います。今年は三連覇へむけて日々邁進していく次第でございます。

当同好会は会員を随時募集しております。野球をやったことがない、連覇がかかっているので私なんか…と思うかもしれませんが心配はご無用です！

野球未経験者でも参加すれば必ず楽しいと感じられる会を目指しております。まずは野球というスポーツに触れてみて楽しむことから始めましょう。少しでも興味のある方は会員、事務局へご連絡ください。みなさまのご参加を心よりお待ちしております。（坂路）

【事務局】神明社　石原誠人
（神道青年会顧問）
☎〇四五―三四一―六三六五

@KANAGAWA_SEINEN